

2021年11月8日

## 2022年3月期 第2四半期連結決算電話会議 内容説明スクリプト

### I. 全般概況

本日発表いたしました当社2022年3月期第2四半期連結決算の概要についてご説明します。決算短信の表紙サマリーをご覧ください。

#### 1. 2022年3月期 第2四半期連結決算 業績概要

##### 1) 当年度第2四半期連結累計期間の経営成績

- ① 売上高 5,979億円 前年同期比1,912億円の増収  
(売上総利益 1,147億円 前年同期比585億円の増益)
  - ② 税引前利益 1,217億円 前年同期比958億円の増益
  - ③ 四半期利益 1,202億円 前年同期比1,029億円の増益
  - ④ 親会社の所有者に帰属する四半期利益1,138億円 前年同期比964億円の増益
- と、前年同期間に対して増収・増益となりました。

##### 2) 第2四半期連結決算の概況

当年度第2四半期連結累計期間の決算概況をご説明いたします。

#### [第2四半期連結決算 業績概況 前年同期比較]

##### ① 連結売上高

###### 《金属価格、為替相場》

銅価格は、前年度から上昇基調が継続していましたが、新型コロナウイルスの変異株の感染拡大による需要減少等を受け、当期間の途中から下落基調に転じました。ニッケル価格は、世界経済が回復基調にある事などを背景に上昇基調で推移しました。金価格は変異株の感染拡大により景気回復に懸念が生じたことなどから上昇基調で推移したものの、米国経済の回復などから下落基調に転じました。この結果、当期間の銅およびニッケル価格は前年同期間を上回り、金価格は前年同期間を下回りました。

平均為替レートは、前年同期間に対し円安となりました。

###### 《売上高》

当期間の連結売上高は、銅およびニッケル価格が前年同期間を上回ったことなどにより、前年同期間に比べて1,912億円増収となる、5,979億円となりました。

##### ② 連結税引前利益

当期間の連結税引前利益は、増収に加え、銅価格の上昇などによる持分法による投資損益が好転したことから、前年同期間と比べて958億円増益の1,217億円となりました。

##### ③ 四半期利益、および 親会社の所有者に帰属する四半期利益

連結税引前利益が増加したことにより、四半期利益は前年同期間に比べ1,029億円増益の1,202億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同期間に比べ964億円増益の

1,138 億円となりました。

なお、当年度第 2 四半期の四半期利益および親会社の所有者に帰属する四半期利益には、10 月 14 日に公表しております、シエラゴルド銅鉱山に係る権益の全保有持分の譲渡に関する一連の手續に伴う法人所得税費用約 250 億円が利益側に含まれております。

### 3) トピックス

当年度第 2 四半期連結決算におけるトピックスについてご説明します。生産量については、決算補足説明資料の 7 ページをご参照ください。

#### ① 海外銅鉱山

##### 《モレンシー》

新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を踏まえて一部のミル（鉱石粉碎装置）の操業度低下策を実施していることなどから、当期間の生産量は前年同期間を下回り、195 千トンとなりました。

##### 《セロ・ベルデ》

当期間の生産量は 192 千トンと、新型コロナウイルス感染症拡大への対応で一時的に保安操業措置を実施した前年同期間を上回りました。

##### 《シエラゴルド》

安定操業の継続と給鉱品位の上昇などにより、当期間の生産量は前年同期間を上回り、93 千トンとなりました。

#### ② タガニート HPAL

当期間中に発生した設備トラブルなどにより、生産量は前年同期間を下回りました。なお、トラブルがあった設備は既に復旧しております。

#### ③ CBNC（コーラルベイ）

新型コロナウイルス感染症の影響により操業度を一時的に低下させたことなどにより、生産量は前年同期間を若干下回りました。

#### ④ 材料事業

材料事業セグメントの当期間の売上高は、前年同期間と比べて 388 億円増収の 1,335 億円となりました。

セグメント利益は、粉体材料において好調な販売を維持したことに加え、電池材料等において一時的に需要が低迷した前年同期間と比較し販売量が増加したことなどにより、前年同期間に対して 113 億円増益の、130 億円となりました。

## 2. 2022年3月期 通期連結業績予想

本年5月に通期の業績予想を公表いたしましたが、今回、この見直しを行いました。

### 1) 売上高および損益

2022年3月期の通期の連結業績予想は、

- ①売上高 1兆1,750億円、5月予想比1,280億円の増収  
(売上総利益 1,980億円、5月予想比480億円の増益)
- ②税引前利益 2,660億円、5月予想比1,280億円の増益
- ③当期利益 2,240億円、5月予想比1,100億円の増益
- ④親会社の所有者に帰属する当期利益 2,140億円、5月予想比1,100億円の増益

と見直しております。

なお、シエラゴルド銅鉱山に係る全権益保有持分の譲渡の実行が2022年3月末までに完了することを前提とした一連の手続きの影響額を、税引前利益ベースで約700億円と想定し、これを今回の業績予想には織り込んでおります。

業績予想の前提となる金属価格および為替は、決算短信の添付資料5ページならびに決算補足説明資料の1ページ下段に記載のとおりです。金属価格については5月予想を上回る水準を見込んでおり、平均為替レートは5月予想に対して円安で予想しております。

2022年3月期の連結業績予想の税引前利益は、一部の海外銅鉱山の減産やそれに起因するコスト増などによるマイナス要因はありましたが、相場要因の追い風や材料事業の増益、シエラゴルド銅鉱山に係る権益譲渡の影響額により、5月予想に比べて大幅な増益を予想しております。

### 2) トピックス

2022年3月期の連結業績予想におけるトピックスをご説明します。生産量については、決算補足説明資料の7ページをご参照ください。

#### ①シエラゴルド銅鉱山に係る全権益保有持分譲渡の影響額

先程もご説明したとおり、譲渡の実行が2022年3月末までに完了することを前提とした影響額を約700億円と想定し、税引前利益に織り込んでいます。この金額は、権益譲渡の実行完了時の譲渡対価と売却資産の連結上の簿価の差によるものですが、あくまでも現時点での見積もりに基づき計算した想定額であり、確定されたものではありません。

#### ②海外銅鉱山

##### 《モレンシー》

新型コロナウイルスの感染症拡大の影響縮小とともに、採掘量のランプアップを行っており、加えて、2022年に再開予定であった選鉱場を7月に処理能力50%で再稼働させています。これらにより、年間の生産量は401千トンと、5月公表計画に対しては増産を見込んでおります。

《セロ・ベルデ》

新型コロナウイルスの感染症拡大による影響を踏まえた年間計画に基づき、順調に操業を継続しておりますが、品位が低下傾向にあり、それを処理量でカバーする操業を続けています。年間の生産量は 393 千トンと、5 月公表計画に対して若干の減少を見込んでおります。

《カンデラリア》

露天掘り採掘箇所が存在する断層によるピット崩落の予防措置のために採掘が遅延し、パートナーの Lundin mining 社は 6 月に年間生産量ガイダンスの下方修正を発表しています。引き続きピットの安定性確保対策とモニタリングを継続しながらの操業となるため、年間の生産量は 107 千トンと、5 月公表計画に対しては 7 割程度にとどまる見込みです。

《シエラゴルダ》

引き続き安定操業の継続が見込まれますが、シエラゴルダについては、第 3 四半期からは持分法適用会社から除外いたします。

③タガニート HPAL

第 1 四半期に発生した設備トラブルによる減産により、年間の生産量は 29.6 千トンと、5 月公表計画に対して 9 割程度にとどまる見込みです。

④CBNC（コーラルベイ）

新型コロナウイルス感染症の影響により、9 月に操業度を一時的に低下させたことなどにより、年間の生産量は 5 月公表計画を若干下回る見込みです。

### 3. 配当

配当についてご説明いたします。

決算短信の表紙サマリー、および本日公表しました「2022 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の実績値と業績予想との差異及び通期連結業績予想の修正並びに剰余金の配当及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

第 2 四半期連結累計期間の業績が確定したこと、並びに通期連結業績予想を修正したことにより、第 2 四半期末の配当額並びに期末の配当予想の見直しを行いました。

今回の第 2 四半期実績および通期業績予想には、2022 年 3 月末までにシエラゴルダ権益譲渡の実行が完了すると想定して、権益譲渡に関する一連の手続きの影響額を含めております。しかし、一定の条件の充足や必要な許認可の取得状況によっては、譲渡実行日が次年度にずれ込むことも想定されるため、中間配当および期末配当予想の算定に際しては、シエラゴルダ権益譲渡に関する一連の手続きの影響額を除いたうえで、連結配当性向を 35%以上としております。

その結果、中間配当は、前回予想に比べて 1 株当たり 42 円引き上げ、113 円といたします。また、期末の配当予想についても前回予想から 1 株当たり 9 円引き上げ、71 円といたします。この結果、1 株当たりの年間配当金は前回予想に比べ 51 円増配の、過去最高の 184 円となる予定です。

なお、シエラゴルダ権益譲渡に関する一連の手続きの影響額には、改訂 IAS 第 28 号「関連会社及び共同支配企業に対する投資」の適用に伴い累積的影響額として 2019 年度に利益剰余金期首残高

で調整した Sierra Godra S. C. M. への貸付金等に対する貸倒引当金の戻入益に相当する金額が含まれております。

この戻入益相当額は、貸倒引当金を認識した際に、累積的影響額であるため 2019 年度の損失計上ではなく利益剰余金を減らす期首調整として計上しており、損益勘定 (PL) を通していないことから、今後の譲渡実行日が確定した以降に開示する配当予想の算定には含めないこととし、これを除いたベースで、当社の株主還元方針である連結配当性向 35%以上を維持してまいります。

## II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

それでは、2022 年 3 月期第 2 四半期決算「補足説明資料」をご覧ください。

ポイントとなる部分のみご説明いたします。

### 1. 1 ページ 決算・予想比較

#### 1) 2021 年度第 2 四半期決算 vs 2020 年度第 2 四半期決算 /2021 年度第 2 四半期累計予想 (8 月)

1 ページ目上段の表が当年度第 2 四半期累計決算と前年同期実績および前回 8 月公表予想との比較となります。表の脚注の記載は、税引前利益の増減分析です。

まず、①-②の前年同期比較をご覧ください。

税引前利益前年同期比 958 億円増益の大部分を占める相場要因好転 886 億円以外の主な項目をご説明します。コスト差については、特にシエラゴルドが前年同期比増産や品位向上などにより大幅な好転となった一方で、前年同期比減産の THPAL、CBNC、モレンシーの他、セロ・ベルデなどで悪化し、トータル 54 億円の悪化となりました。QB2 建設中断コスト+39 億円は、前年同期に計上した当該費用計上が今期無いことによる一過性要因です。その他の△63 億円には、海外銅鉱山の税金費用増加や未実現利益、副産品の好転影響等が含まれています。

続いて、①-③の 8 月予想との比較をご覧ください。

税引前利益 157 億円増益の要因のうち、相場要因好転 77 億円以外の主な項目をご説明します。数量差については、菱刈やシエラゴルドにおいて 8 月予想比増販となったことなどにより 19 億円の好転となりました。その他の+44 億円には、未実現利益、副産品の好転影響等が含まれています。

#### 2) 2021 年度通期業績予想 (11 月予想) vs (5 月予想)

##### 2021 年度第 3+第 4 四半期業績予想 (11 月予想) vs 2021 年度第 2 四半期決算

次に、1 ページ目下段の表は、今回見直した業績予想と前回 5 月予想および第 2 四半期累計決算との比較となります。

表の脚注の記載③-④の新旧予想比較をご覧ください。

通期業績予想の税引前利益は前回 5 月予想比 1,280 億円増益となりました。相場要因好転 759 億円と、シエラゴルド権益譲渡の影響額以外の主な項目をご説明します。コスト差については、

THPAL やセロ・ベルデ、カンデラリアなどで5月予想比減産に伴う悪化を見込むことなどによりトータル△186億円の悪化予想となりました。その他の△56億円には、海外銅鉱山の税金費用増加や未実現利益、副産品の好転影響等が含まれています。

このページの一番下、②-①の今回下期業績予想と第2四半期累計決算との比較をご覧ください。

税引前利益 226 億円増益のうち、金属価格の前提条件などにより相場要因では 260 億円の悪化となります。数量差については、上期に増産・増販となった菱刈が上下比較ではマイナスを見込む一方で、THPAL、モレンシー、セロ・ベルデなどで下期に回復、増産・増販による好転を見込むことから 53 億円好転の予想となりました。コスト差については、菱刈や、下期に計画どおり東予工場の定期炉修を行う電気銅などが上下の比較ではマイナスとなることから、34 億円悪化の予想となりました。材料事業は大幅に増益となった上期と比べると電池材料事業、粉体材料事業等で価格差・構成差などの要因でマイナスとなっています。その他の△98 億円には、未実現利益や、副産品、販売直接費の悪化影響等が含まれています。

## 2. 3 ページ セグメント別対前年同期実績比較（売上総利益増減）

3 ページセグメント別の前年同期比較をご覧ください。

資源セグメントの売上総利益は 458 億円と 242 億円の増益となりました。ページ中央の増減説明に記載のとおり、菱刈鉱山の上期販売量増に伴う数量差好転、海外銅鉱山・主にモレンシーの銅価格上昇に伴う価格差好転が主な要因です。

製錬セグメントの売上総利益は 553 億円と 296 億円の増益となりました。下段の増減説明のとおり、銅系は 134 億円、ニッケル系で 122 億円の好転ですが、ニッケル・コバルト価格上昇によりニッケル系の価格条件差で大きく好転した他、銅系・ニッケル系とも在庫評価で好転しました。その他について、銅系は+91 億円のうち為替による影響は僅かであり、ニッケル系は+8 億円のうち為替による影響は+4 億円となっています。

## 3. 4 ページ セグメント別対前年同期実績比較（材料事業の製品群別売上高）

4 ページ上段、材料事業の製品群別売上高のうち、電池材料の売上高については、一時的な需要減の影響を受けた前年同期に対し 221 億円増収の 626 億円となりました。粉体材料については、好調な市況・需要を背景とした増販などにより 90 億円増収の 258 億円となりました。

## 4. 4 ページ セグメント別対前年同期実績比較（持分法投資損益）

次に、4 ページ下の表、持分法投資損益については、前年同期比 288 億円増益の 244 億円となりました。セロ・ベルデは、前年同期に対し増産・増販となったことや銅価格上昇により前年同期比 114 億円増益の 117 億円となりました。シエラゴルダは、操業安定化や給鉱品位上昇、銅価格上昇などにより 122 億円増益の 61 億円となりました。

## 5. 5 ページ セグメント別業績予想比較 2021 年度予想（11 月）vs（5 月）

5 ページをご覧ください。

今回見直した 2021 年度通期業績予想を 5 月公表予想値と比較したものです。業績予想の数値は 10 億円単位の丸め数字で記載しています。

資源セグメントの売上総利益は 830 億円と 200 億円の増益と予想しています。ページ中央の増減説明に記載のとおり、菱刈鉱山の価格差好転、海外銅鉱山・主にモレンシーの銅価格上昇に伴う価格差好転と前回予想比増産・増販を見込むことによる数量差好転が主な要因です。

製錬セグメントの売上総利益は 870 億円と 320 億円の増益と予想しています。下段の増減説明のとおり、銅系は 203 億円、ニッケル系で 138 億円好転の予想です。主な要因として、ニッケル系の価格条件差、銅系・ニッケル系の在庫評価で大幅に好転と予想しています。一方、コスト単価では THPAL の減産などによりニッケル系で 96 億円の悪化と予想しています。その他については、銅系+81 億円のうち為替による影響は+4 億円、ニッケル系は+19 億円のうち為替による影響は+16 億円と予想しています。

#### 6. 6 ページ セグメント別通期業績予想比較（材料事業の製品群別売上高）

6 ページ上段、材料事業の製品群別売上高について、材料事業全体の売上高は 2,750 億円で 5 月予想比 230 億円の増収と予想しています。

電池材料は、堅調な生産・販売を継続していることに加え、金属価格上昇の影響などにより 5 月予想比 120 億円増収の 1,300 億円と予想しています。粉体材料は、一部製品で需要に不透明な部分は出ているものの 5 月予想比 80 億円増収の 520 億円と予想しています。

#### 7. 6 ページ セグメント別通期業績予想比較（持分法投資損益）

6 ページ下段の持分法投資損益については、5 億円刻みの丸数として表示しています。

セロ・ベルデは 5 月予想比減産・減販となるものの銅価格上昇等により 55 億円の増益、カンデラリアは減産によるマイナス影響により 30 億円の減益と予想しています。持分法投資損益全体としては、5 月予想比で 55 億円増益の 460 億円と予想しています。

以上